

授業評価 2015 (前期) T1Q: 工学部機械工学科

syll mkjhytex.pl Ver 2.79(2015-09-11) by Yas

2015 年度前期 工学部機械工学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1Q002001	微分方程式演習	2 年前期金曜 3 限	松坂 壮太	T1Q 1
T1Q013001	熱力学 I	2 年前期火曜 4 限	田中 学	T1Q 2
T1Q014001	鉄鋼材料	2 年前期水曜 2 限	魯 云	T1Q 3
T1Q015001	機械運動学	2 年前期水曜 3 限	中本 剛	T1Q 4
T1Q029001	機械加工学	3 年前期水曜 3 限	森田 昇	T1Q 6
T1Q035001	伝熱工学	3 年前期月曜 4 限	太田 匡則	T1Q 7
T1Q036001	数値計算法	3 年前期火曜 5 限	武居 昌宏	T1Q 8
T1Q050001	ロボット工学	3 年前期火曜 2 限	並木 明夫	T1Q 9

授業科目名	: 微分方程式演習
担当教員	: 松坂 壮太
年次・開講時限	: 2 年前期金曜 3 限
授業コード	: T1Q002001
授業アンケート	: 回答者数 58 人 / 受講者数 81 人 (回収率 72%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 58 件)
半期の中に、数回宿題を出しましたが、これだけでは演習量が十分ではありません。微分方程式の演習問題に関する書籍は多数出ています(各々の内容にもそれほど差異がありません)ので、まずは各自で 1 冊を手にとって、積極的に問題を解いてほしいと思います。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 58 件)

私も TA も質問しづらい雰囲気を出しているわけではないと思いますので、ぜひ積極的に質問してください。分からない点は、なるべくその日のうちに解決して帰ってほしいと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

わかりやすいと言ってくれる学生さんが多く、大変うれしく思います。授業の内容をよりよいものにするため、各回の小テストに自由記述欄を設けていますので、そちらも活用してもらえればと思います。

作成(者): 松坂壮太

授業科目名	: 熱力学 I
担当教員	: 田中 学
年次・開講時限	: 2 年前期火曜 4 限
授業コード	: T1Q013001
授業アンケート	: 回答者数 81 人 / 受講者数 121 人 (回収率 67%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q4. Q3 の評価が「はい」でない場合, その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 32 件)
声が小さく聞こえにくいとの指摘がありました。マイクの音量を上げ, 大きな声で話すように注意します。

Q29. この授業で良かった点について記入してください。(回答 6 件)
配布資料が詳細に書かれていてわかりやすいと好評でした。今後も続けたいと思います。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 田中 学

授業科目名	: 鉄鋼材料
担当教員	: 魯 云
年次・開講時限	: 2 年前期水曜 2 限
授業コード	: T1Q014001
授業アンケート	: 回答者数 73 人 / 受講者数 115 人 (回収率 63%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

- Q4. Q3 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 29 件)
板書を増やして声が聞き取りにくいしゃべり方をカバーする。
- Q6. Q5 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 22 件)
スライドの PPT をわかりやすいように直していく。
- Q8. Q7 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 16 件)
教室の環境にもっと気を配るようにする。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

期末の総合試験とアンケートより総じて授業の目標は概ね達成でき、学習の到達度に高いと言える。一方、授業での説明やスライドのわかりやすさなどについて Q29 と Q30 のアンケートの意見からも評価がわかれているため受講生の状況に応じて板書やポイントへの重点説明など改善が必要と考えている。また受験生には記述の多い専門授業には、暗記ではなくまとめる力(帰納的)を意識しながら受講してください。

3. その他のコメントや連絡事項

「鉄鋼材料」は、専門の必修科目として主たる機械材料として用いられる鉄鋼材料について、基本的な状態図と恒温変態曲線を理解し、熱処理による組織と機械的性質の関係を学び、鉄鋼の強化方法について最近の加工熱処理についても理解を深めることを目的とする。機械部品として多く設計・使用される鉄鋼の「適材適所」の選択のためには鉄鋼材料の基本的な状態図と恒温変態曲線を理解しなければならない。また熱処理による組織と機械的性質は大きく変わるので、主体的にその特性を制御できる知識を持たねばならない。この講義は、主にプロジェクターによって行い、Web で配布した講義資料を印刷して、それにノートを取ることはより効果的である。また、出欠状況と授業内容への理解度を把握するため毎回授業中に小問題を出して答えを書いてもらった紙を回収する。毎回の講義のポイントに関連して出している数問の“考える問題”は考える機会として十分に利用してください。記述の多い専門授業には、基礎科目とは異なる勉強の仕方が必要である。

作成(者): 魯 云

授業科目名	: 機械運動学
担当教員	: 中本 剛
年次・開講時限	: 2 年前期水曜 3 限
授業コード	: T1Q015001
授業アンケート	: 回答者数 5 人 / 受講者数 5 人 (回収率 100%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q1. この講義のシラバスについて、該当するものを全て選択して下さい。(回答 5 件)

今年度の受講生は、ようやく、シラバスを読むようになったことが判明した。今までは、手間をかけてシラバスを作成しても、学生は、読まず、何のためにシラバスを作成したのか、わからない状況であった。

Q7. 教室の環境は満足できるものですか？(回答 5 件)

教室の環境が悪いのは、教員の責任ではない。設備が悪いからである。この項目は、アンケートから、外すべきである。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか？(回答 5 件)

1 名のみ、「いいえ」と回答した者がいた。この授業では、授業後に 12 回の課題を与え、教員が採点して、翌週の授業で課題を返却して、黒板で解答している。普通に課題を遂行していれば、学力が向上する。この学生は、授業期間中、何をやっていたのか、友人の課題をコピー＆ペーストしていただけなのか、逆に、疑問に思ってしまう。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 4 件)

「初回のガイダンスの説明で、授業を受けるリスクを話すのはよいのですが、授業内容の説明がわかりづかったように思います。」という記述があった。

この授業は、12 回の課題があり、かつ、期末試験もある。これを最初に説明しておかないと、学生たちは、初回の授業で説明しなかったことに対して不満を述べる。このことについて、最初の授業で説明したにもかかわらず、このようなコメントが湧いてきてしまうのは、授業を聞いていない証拠である。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 4 件)

「授業で扱う代表的な機構を例に、どういう初期条件からどういった値を出すような問題を扱うか... 等があれば分かりやすかったのかな、と。実際の機械の例示はありましたが、ああいった写真などからスケルトン表示を起こしたりなどは扱わなかったので(最終回で若干やりましたが)、授業のガイダンスというよりは機構学全体のデモンストレーションのように感じました。受講時のリスクの話と並べるとどうしても漠然とした内容に聞こえてしまいます。」という記述があった。

この学生は、授業期間中、何を聞いていたのか、逆に聞きたい。1 回目の授業だけでなく、課題を与えるたびに説明していた。自分自身が授業を聞いていないのを棚に挙げて、教員を非難するのは、いいかげんにしてもらいたい。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 4 件)

「もっとも、レポートの採点など非常に手間のかかることが多い授業で、大人数に受講されるのは教授としても現実的じゃないとの話もありましたので、意図的に人数を減らしたいという側面もあったのかとは思いますが...」という記述があった。

自分たちがさぼりたいのを、教員のせいにするのは、言語道断である。毎回、採点、添削して、課題を返却していた教員の努力は、踏みにじられてしまった。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 4 件)

「ある集団(「ゆとり世代」等)に所属していても個人個人で考え方は異なるため、その集団に所属するすべての人をまとめて批評をすることは極力避けて頂きたいです。」という記述があった。この授業に関する的外れな非難そのものが、ゆとり世代の欠点である。学生たちのほうこそ反省しなさい。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 4 件)

「また我々の先輩方のアンケートを尊重するのは良いことだと思いますが、現在の受講者の希望をより尊重して頂けると嬉しいです。(テスト返却、解説等)」という記述があった。

毎回、課題を返却して、解説したことを、この学生は、聞いていなかったのかと、逆に、尋ねた。匿名の授業アンケートなので、このような的外れの、陰湿な非難が湧いてくるのである。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 4 件)

「期末試験の解説はすべきである。」という記述があった。

毎回、課題を与え、次回の授業で返却して解説するというこの授業形態を非難しているのに、このコメントは、矛盾している。このように、矛盾だらけの意見に、教員がいちいち、コメントしなければならぬことの不条理を感じている。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 4 件)

「単位取得に関係なく、理解を深め、授業で学んだことを今後活かせるようにすべきである。」という記述があった。

そのために、毎回、課題を与え、翌週の授業において返却し、解説した。さらに、最終回では、この授業で学んだことが、どのように役立っているかについても説明した。この学生は、授業を何ら、聞いていないことが判明した。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 4 件)

「ガイダンスで必要以上に学生を脅すのは少し控えて頂けるとありがたいです。」という記述があった。

この授業は、12 回の課題があり、かつ、期末試験もある。これを最初に説明しておかないと、学生たちは、初回の授業で説明しなかったことに対して不満を述べる。このことについて、最初の授業で説明したにもかかわらず、このようなコメントが湧いてきてしまうのは、授業を聞いていない証拠である。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業期間中、受講生に対して教えたことは、何ら反映されていないことがわかる。毎回、課題を与え、翌週の授業までに採点、添削して、解説した努力は、踏みにじられてしまった。くだらない意見を記述する前に、学生たちは、自分たちの受講態度を反省すべきである。

3. その他のコメントや連絡事項

授業に対して努力している教員へ非難することは、やめてもらいたい。学生たちが、そのような態度であるため、教員は、学生から提出された課題に対して、丁寧に採点し、添削することがなくなってしまうのである。このような授業アンケートを行うことは、授業の改善のためには、逆効果である。

作成(者): 中本 剛

授業科目名	: 機械加工学
担当教員	: 森田 昇
年次・開講時限	: 3 年前期水曜 3 限
授業コード	: T1Q029001
授業アンケート	: 回答者数 66 人 / 受講者数 87 人 (回収率 76%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 65 件)
準備学習・復習にかかる時間数が少ない。毎回の授業ではないが、確認ドリルと演習問題を課している。いづれも、教科書参照可としているが、今後は教科書参照不可とするなど、準備学習・復習に費やす時間が多く取れるよう、工夫・配慮したいです。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 64 件)
授業中や授業後に質問をする学生が少ない。今後は、双方向の授業方法(学生に質問をする等)や質問内容を積極的に受け付ける方策を検討し、緊張感のある授業となるよう工夫したいです。

Q12. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか? (回答 64 件)
他の授業科目を含む各アンケート項目の平均点数の中で最も高い点数であり、本授業科目に対する学生の積極性が高く評価できます。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

アンケートに対する回答率は 76 % と比較的高い。上記 Q13 と Q14 以外は、概ね他の授業科目を含む各アンケート項目の平均点数を上回っており、本授業に対する評価が高いと考えています。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 森田 昇

授業科目名	: 伝熱工学
担当教員	: 太田 匡則
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 4 限
授業コード	: T1Q035001
授業アンケート	: 回答者数 57 人 / 受講者数 84 人 (回収率 68%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 55 件)

「はい」、「ややそういえる」の合計が 78.2 %であった。主に教科書を利用したがおおむね役立ったものと考えます。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 55 件)

主に板書するスタイルをとっているが、「はい」、「ややそういえる」の合計が 76.4 %であったため, 概ね不都合はなかったものと考えます。自由記述に文字の板書が多い, 余計なことを書きすぎているとの記述がありましたが, 式の導出過程など, 他の教科を理解する上でも役立つはずである内容をあまり省略しないように記述することに努めている。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 5 件)

期末試験での形態係数を求める問題については, 説明する時間があまり取れなかった。しかしながら, 単純な 2 つの関係式を連立させるだけの問題であり, 微分や積分といった難しい内容は含んでいない。習っていない, 教わっていないと感じるよりも, 自分で考える習慣を身につけて欲しいと考えます。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 太田匡則

授業科目名	: 数値計算法
担当教員	: 武居 昌宏
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 5 限
授業コード	: T1Q036001
授業アンケート	: 回答者数 28 人 / 受講者数 48 人 (回収率 58%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 3 件)

授業中で生徒に須津門を求めるような授業を望む、という意見がありましたので、そのように対処します。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

アンケート結果から、授業をしっかり受けていれば理解できるというのが感じられます。

理解できない人は、質問したり、予習・復習時間をしっかりしてください。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 武居昌宏

授業科目名	: ロボット工学
担当教員	: 並木 明夫
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 2 限
授業コード	: T1Q050001
授業アンケート	: 回答者数 43 人 / 受講者数 66 人 (回収率 65%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 40 件)

ロボット工学の基礎だけでなく, 最先端の理論・手法もなるべく含めるようにしました。反面, 一部の内容は高度になりすぎてしまったかもしれません。

次年度からは具体的な例題を増やし, 理解を深めるように手配したいと思います。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 41 件)

教科書だけではカバーできない事項が多いので, スライドファイルが理解に役立つよう充実させていく予定です。

また, スライドだけではわかりづらい, 例題がほしいとの要望がありましたので, 適切な例題を増やしていくようにする予定です。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 並木明夫